

平成24年度

”十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート”活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成23年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルート				報告年月日: 2013/3/31					
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観	地域の景観資源を守ろう、活かそう	歴史的な景観資源を発掘し継承する	1	—	—	—	—		花壇整備などを通して、地域間の連携基盤づくりを進めるとともに、平成22年度から不要看板をルートシンボルへ塗り替え再生を行う事業を継続し、景観形成に向け取り組みを行った。また、平成22年度、平成23年度に引き続き、十勝シーニックバイウェイ連携事業である、とかちイエローリボンプロジェクトにおいても、ひまわり植栽面積を拡大し、優れた景観の創出を目指した。シーニックカフェに新たに2箇所が加わり、ルートの景観のPR拠点が増加した。
		十勝の山麓・平野に広がる美しい田園景観を活かす	2	シーニックカフェの追加 (ナイタイ高原レストハウス、 三国峠茶屋)	ナイタイ高原レストハウス、 三国峠茶屋	平成24年4月～10月 平成24年4月～11月			
	特色溢れる景観を創出しよう	景観の見せ場を創る	3	—	—	—	—		
		沿道を花と緑で彩る	4	花植え活動(各町の道路沿道、駅前、公園など)	清水町商工会女性部、 鹿追町商工会町内一斉 清掃、上士幌町商工会 女性部、足寄町地域部 会	平成24年4月～6月	265名		
			5	十勝シーニックバイウェイ連携事業 : イエローリボンプロジェクト	とかちイエローリボンプロジェクト 実行委員会	平成24年5月～8月	主催: 20人程度 一般: 100人程度		
			6	北海道ガーデン街道との連携事業: 人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト	シーニックバイウェイ & ガーデン街道 美しい北海道 景観を育てる会	平成24年4月～平成25年3月 ※平成24年5月19日植樹祭	3ルートおよび関係機関など 100人程度が参加	A - 1	
	沿道景観を取り巻く環境向上に向けた取り組み	道路工作物の景観を整える	7	景観資源と地域資源を守ろう・活かそう ～不要看板の再生～	十勝平野・山麓ルート (景観形成分科会)	平成25年1月 各地域部会で実施 鹿追町・清水町・上士幌町・ 上士幌町・足寄町・陸別町	300人		
		手入れの行き届いた沿道景観をつくる	8						
地域	地域が一体となった情報発信の検討	広域的な地域情報発信の連携	9	十勝シーニックバイウェイ連携事業 : シーニックカフェスタンプラリー	十勝シーニックバイウェイ	平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	一般応募78人 (カフェ12箇所以上: 20人)		特に道東道の開通を機に十勝へのアクセス性が高まった今、地域の魅力を発見、創造していくと同時に、これを発信していく機会、手段を持つことが重要である。平成22年度に作成した「十勝平野・山麓ルートマップ」が各地で高い評価を得ていることから、「自治体区切りではなく広域での情報提供」が有効であることが示唆された。今年度はルートマップをリニューアルし、情報発信に努めた。今後も、この種の情報発信を継続的に行うことが重要と考える。
			10	ルートマップの作成	十勝平野・山麓ルート (観光振興分科会)	製作: 平成24年8月～11月 発行: 11月	主催30人		
	地域のシーニック運営への意識を高めよう	持続的なルート運営の為の運営体制の検討	11	—	—	—	—		
		地域にシーニックを浸透させよう	12	十勝シーニックバイウェイ連携フォーラム	十勝シーニックバイウェイ	平成24年7月8日	一般: 200人程度 主催: 50人程度		
	地域の農・食・産品を繋げて活かそう	地場産品・食をPRする	13	新千歳空港ターミナルビル 北海道ショールーム「1周年記念 施策」 北海道魅力発見博への協力 ＜観光PR活動＞	シーニックバイウェイ北海道	平成24年7月14日(土)～ 8月26日(日)の期間中、 1週間単位で各エリアごとにイベントを実施 平成24年8月5日～12日 (十勝エリア)	ルート参加者: 10名程度 関係者全体: 200人程度		
		農業を活かす	14	シーニックカフェ美瑛パノラマパーク (道路敷地の利用)	清水町、清水町観光協会	平成24年7月～8月	主催: 5人程度 一般: 447人		

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ・十勝平野・山麓ルート				報告年月日: 2013/3/31					
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
観光		個店を活かす仕組みづくり	15	—	—	—	—		馬の道については、ルートの独自性において優位な取り組みと言えるため、今後も継続的に案内看板・休憩箇所の設定などを行っていき、具体の商品化への道筋を見い出したい。また、清水町美蔓パノラマパークで実施したシーニックカフェは、利用者の満足度が高く、地域においても継続への意識が高いことから、今後も継続実施したい。平成23年度のフォトコンテストの巡回展を各町村で実施し、大変好評だった。ルートの情報発信として継続的に実施してことが望まれる。
	提案型観光地づくりの検討	野外活動型滞在観光地づくり	16	馬の道の活用	北海道エンデュランス協会	平成24年6月23日～24日 平成24年9月21日～23日	50名程度		
		健康保養型滞在観光地づくり	17	—	—	—	—		
	地域資源の発見と共有に取り組もう	地域資源の発見と共有	18	視察研修(十勝の魅力再発見)	十勝シーニックバイウェイ	平成24年6月13日	3ルートおよび関係者で30名程度		
			19	フォトコンテスト巡回展	十勝平野・山麓ルート(観光振興分科会)	平成24年5月～			

十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート ^{A-1}

TOKACHI Scenic Byway TOKACHIHEIYA・SANROKU route

活動名：人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト

【概要】北海道観光の道しるべとなる”サインツリー”を、地域が一体となって旭川～十勝間の幹線道路沿道に植え、訪れる人々に、地域の要所、景観の優れた（シーニック）箇所、並木、花壇や庭園（ガーデン）を案内し、おもてなしを行うという、十勝シーニックバイウェイの3ルート、大雪・富良野ルート、ガーデン街道が連携して実施している取り組み。今年度植樹祭を実施し、各ルートにサインツリーを植樹した。後世に残る新しい景観を創出することで、他地域との交流人口拡大も期待できる。

【日時】植樹祭 平成24年5月19日

【場所】十勝シーニックバイウェイの3ルートおよび大雪・富良野ルートのエリア内

【主催】シーニックバイウェイ&ガーデン街道 美しい北海道景観を育てる会

【参加人数】3ルートおよび関係機関など100人程度が参加



プロジェクトの概念



地域の親子による植樹



植樹祭の記念撮影

十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway TOKACHIHEIYA・SANROKU route

活動名：ルートマップの作成

【概要】特に道東道の開通を機に十勝へのアクセス性が高まった今、地域の魅力を発見、創造していくと同時に、これを発信していく機会、手段を持つことが重要である。平成22年度に作成した「十勝平野・山麓ルートマップ」が各地で高い評価を得ていることから、観光には「自治体区切りではなく広域での情報提供」が必要であると実感した。今年度はルートマップをリニューアルし、更なる情報発信に努めた。今後も、この種の情報発信を継続的に行うことが重要と考える。

【日時】制作期間：平成24年8月～平成24年11月 / 発行：平成24年11月

【検討機関】観光振興分科会

【発行】部数：5万部、配布箇所：十勝管内の道の駅・札幌地下歩行空間 等

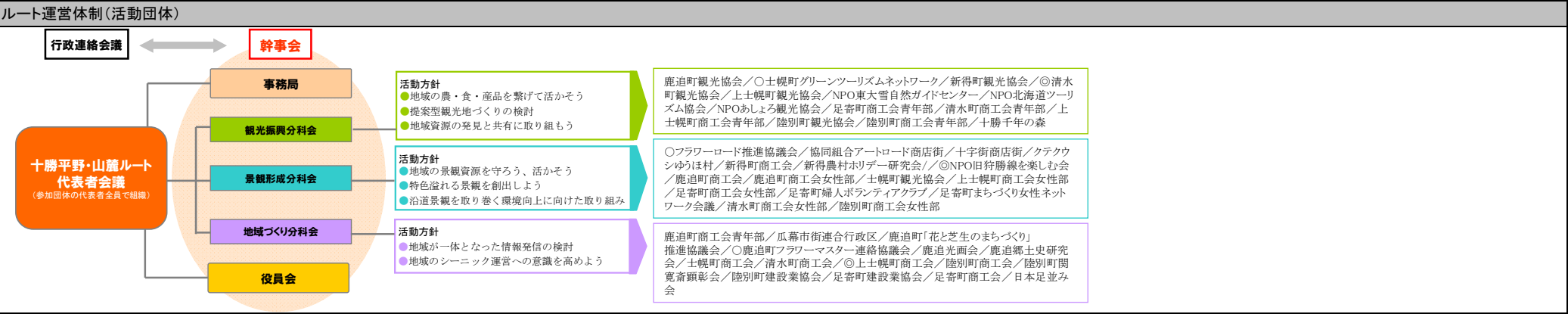


十勝平野・山麓ルートMAP 抜粋

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルート	報告者:十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルート 代表 三井福成	報告年月:2013/3/31
------------------------------	------------------------------------	----------------

活動団体
新得町観光協会、新得町商工会、新得農村ホリデー研究会、NPO法人旧狩勝線を楽しむ会、清水町観光協会、清水町商工会、清水町商工会女性部、清水町商工会青年部、十勝千年の森、鹿追町観光協会、鹿追町商工会、鹿追町商工会青年部、鹿追町商工会女性部、鹿追町花と芝生の町づくり推進協議会、フラワーマスター連絡協議会、フラワーロード推進協議会、協同組合アートロード商店街、十字街商店会、瓜幕市街連合行政区、クテクウシゆうほ村、鹿追光画会、NPO法人北海道ツーリズム協会、鹿追郷土史研究会、土幌町商工会、土幌町観光協会、土幌町グリーンツーリズムネットワーク、上土幌町観光協会、上土幌町商工会、上土幌町商工会女性部、上土幌町商工会青年部、NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター、足寄町商工会、足寄町商工会女性部、足寄町商工会青年部、NPO法人あしよろ観光協会、足寄建設業協会、日本足並み会、足寄町まちづくり女性ネットワーク会議、足寄町婦人ボランティアクラブ、陸別町商工会、陸別町商工会青年部、陸別町商工会女性部、陸別関寛斎顕彰会、陸別町建設業協会、陸別町観光協会



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議		● 5/14											
	幹事会・分科会	● 4/17				● 8/24		● 10/10			● 1/16			
	3ルート連携会議	● 4/18		● 6/29			● 9/18			● 12/19				
	その他連携会議(100年の木プロジェクト)	● 4/10		● 6/29					● 11/9					

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルート	報告者:帯広開発建設部	報告年月:2013/3/31
------------------------------	-------------	----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施		● 5/8									● 2/26予定		

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート			報告者: 帯広開発建設部		報告年月: 2013/3/31		
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成24年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
観光	・地域の観光資源を発見し有効活用する ・人が集まる地域になるための情報発信 ・訪問者に満足してもらうための情報共有 ・「見る・遊ぶ・食べるの充実」	十勝シーニックバイウェイPR活動	平成24年8月	帯広開発建設部	新千歳空港で行われたイベント「北海道魅力発見博」に参加し、十勝シーニックバイウェイの紹介、説明などのPRを行った。空港での開催であるため、道外からの観光客が多く、十勝の魅力を発信する貴重な機会となった。 今後もイベント等でのPR活動を積極的に行っていきたい。	行政機関とルートが連携した取組を行うことにより効果がよりいっそう高くなっている。今後も行政とルートとの連携を強化しPRのため広域での取組を行っていく必要がある。	13
		シーニックカフェ美蔓パノラマパークの実施	平成24年7月1日 ～ 8月26日	清水町 清水町観光協会 帯広開発建設部	清水町美蔓パノラマパーク(国道駐車帯:帯建は道路占用許可を実施)で、清水町、清水町観光協会と地域住民のボランティアによりシーニックカフェを開催した。優れた景観に加え飲食物の提供、周辺観光情報の提供も実施し、利用者の満足度が高かったため継続開催を予定している。 次年度以降は、観光客が次に向かう地域の観光情報の拡充や、地域住民の参加の拡大に努める必要がある。		14
景観	・地域の顔としての美しい沿道景観創り ・地域の思いを反映した景観づくりのためのルール設定 ・訪問者に満足してもらうための情報共有	とかちイエローリボンプロジェクト	平成24年5月～10月	自治体 商工会 帯広開発建設部	各自治体、商工会、帯広開発建設部で、ひまわり植栽に向けて実施箇所検討及び種植えに積極的に参加した。 地域の景観向上のため今後も継続して取り組めるよう検討を行う必要がある。		5
		人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト	平成24年4月～平成25年3月	自治体 商工会 帯広開発建設部	植樹における植樹箇所及び道路占用許可申請の調整等を行った。また、植樹祭(5月9日)へ参加し本プロジェクトの活動についてPRすることができた。 今後は、植樹希望箇所が国道以外あることから、関係自治体等と連携して進めていく必要がある。		6

5. 平成23年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート 代表 三井 福成	報告年月:2013/3/31
-------------------------------	--------------------------------------	----------------

平成23年度活動報告への助言	平成24年度 状況報告	備考
シーニックバイウェイ北海道の持続的かつ発展的な推進を図るため、多様なツール、手法を駆使した情報発信やPR活動を戦略的にを行い、ブランドの形成、地域への浸透、海外を含めた他地域との交流促進に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。	●情報発信やPR活動 候補ルート時代より、地域資源の発掘を続けてきたが、これを基盤としてルートマップという形に落とし込めたこと、あるいは不要看板を活用してルートのPRを可能としたことの成果は大きい。ルートマップが大変好評であったことから、ルートマップの再編集に取り組み、今年度発行した。広域のマップは他ではあまりないため、今後も情報発信ツールとして活用していきたいと考えている。また、昨年度実施したフォトコンテスト作品の巡回展を実施したことで、シーニックのPR活動を行うとともに、ルート内の景観の素晴らしさを地域の方たちに再認識してもらう機会となった。 ●ブランドの形成・地域ビジネスについて 昨年度来、当ルートの特徴づける取り組みとして「馬の道プロジェクト」を継続的にやってきた。十勝の魅力を活かした取り組みであるだけでなく、総延長125kmを目指す馬の道は、各町の連携が欠かせないものであり、体験・宿泊・景観・寄り道という極めてシーニックらしい理想的な形でのブランド形成と成り得る取り組みである。一部看板も取り付けられたことから、今年度は鹿追町から士幌町までの馬の道がエンデュランスの大会に利用された。今後、更なるビジネス化(商品化)に向けた試験的取り組みを進めていく必要がある。 ●人材育成とルート基盤強化について 人材育成にはルートの組織(運営代表者会議)の内部でのもの、外部におけるそれに分けられると考える。内部においては、地域の若い年代が、徐々にルートに対してより積極的に関わってくる機会が増え、個人の行動力によって、地域に新しい動きをもたらし始めてきたところである。一方で、外部から新しい人材を取り込むこと、あるいは連携することに関しては、未だ明確な成果を得ていない。これには、「シーニックの実態」が十分に地域の人に伝わっていないことが根本的な原因と考えられる。今後は、ルート活動の報告や、地域の魅力紹介などで構成されるコミュニティ誌、あるいは「かわら版」などのツールを検討し、地域浸透に努めることが必要であるとする。 ●幅広い関係機関による支援体制の強化について 100年の木プロジェクトを通じて、ガーデン街道やコカコーラボトリング北海道コカ・コーラボトリング株式会社との連携が強化されつつある。この連携を活かし、相互支援体制を検討していく必要がある。	

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者:帯広開発建設部	報告年月:2013/3/31
-------------------------------	-------------	----------------

平成23年度活動報告への助言	平成24年度 状況報告	備考
シーニックバイウェイ北海道の持続的かつ発展的な推進を図るため、多様なツール、手法を駆使した情報発信やPR活動を戦略的にを行い、ブランドの形成、地域への浸透、海外を含めた他地域との交流促進に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。	●情報発信やPR活動 平成22年度に発行した「十勝平野・山麓ルートマップ」は大変好評であったことから、内容の充実を図り今年度も発行した。広域のマップは需要があり、利用者ニーズにあった情報発信・PR活動を進めている。 ●ブランドの形成・地域ビジネスについて 「馬の道プロジェクト」はルート案内の標識を設置するなど着実に整備を進めており、ルート上のアクティビティと併せて当ルートのブランド形成に向けて取組を進めている。 ●人材育成とルート基盤強化について 昨年度陸別町が加入し、活動団体も大幅に増加した。シーニックカフェの増加など活動の幅も広がっており、今後も更なる発展が期待される。 ●幅広い関係機関による支援体制の強化について 十勝シーニックバイウェイ3ルート、大雪・富良野ルート、北海道ガーデン街道で取り組んでいる「人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト」など民間企業との連携など新たな活動が始まったことから、今後も活動内容の実現に向けた展開が期待される。	